

頁	意見	対応
4	P.4 「『お茶の京都』ターゲットイヤー」でどうしても時系列が止まっており、11月19日、20日に行われた全国お茶まつりを記載していただきたい。	P.4、P.9 下線部
4	P.4は、「『お茶の京都』ターゲットイヤー」の話で時系列が終了している。	追記
6	P.6、重要文化的景観の委員会において、JRの複線化に伴う架橋についても宇治川の景観と調和させる対応をされてきたのは、歴史的風致を向上するための活動として評価できると思う。	追記
8	P.8 「まちづくり活動の活性化」については、様々な面で本当は波及効果があると思うので、まちづくり協議会の活動だけに絞るのは少し限定的だと思う。	追記
9	P.9 「宇治茶のブランド価値の向上」を読んでも、歴史的風致維持向上計画と関係ない話を書いているのではないかと読めるような気がする。	追記
9	P.8、9は実際に実施していることではあるが、もう少し書けることがある。先ほどのP.4 「『お茶の京都』ターゲットイヤー」で時系列が止まっているように、情報があまりアップデートされていないという感じがする。	P.4、P.8、P.9 下線部
10	P.10効果発現の経緯と成果もセットを配っています、計画をやりました、というような行政風になっており、本当の教育の価値として実施していることがあまり伝わっていない	追記
11	P.11 「国・京都府との連携」において、ハードについてしか書かれていない。	追記
11	P.11で天ヶ瀬ダムのかわまちづくりのインフラツーリズムについては、おそらく第2期計画のかわまちづくりの中にインフラツーリズムという表現を記載されているということと関連するので、必要なのではないかと思います。	追記
11	P.11のどこかで、インフラツーリズムというようなソフトも今後使っていく可能性もあるので、特に宇治市天ヶ瀬ダムかわまちづくり計画の中でも約50年を超えた天ヶ瀬ダムの今後の活用において、見学ツアーという部分もあるが、インフラツーリズムというような文字が入ればいいと感じた。	追記
11	天ヶ瀬ダムは単純に観光資源というよりも、関西電力の発電所があり、ある種、地域資源の一つでもある。	効果発現の経緯と成果 「地域資源」に変更
12	P.12 自己評価で、お茶と宇治の歴史公園が開園したということで終わっている	追記

12	P.12「A情報発信・観光交流施設整備事業」の茶づなの自己評価が「～開園した。」で終わっているのが、記載として他のところとバランスがとれておらず、歴史的風致維持向上と「開園した」というところのリンクが少しわかりにくい。情報発信拠点あるいは、宇治茶の伝統や文化を伝えるための拠点として、開園したというような表現に工夫してはどうか。	追記
13	P.13について、施設整備事業について淡々と書かれているが、やはり先進的な整備をきっちりとやってきたという取り組みを書いていくべきだと感じた。	追記
15	P.15の河畔の歴史的風致について、最近、お寺で様々なライトアップや様々な催しの取り組みをされていることもきっちりと記載が必要なのではないかと感じている。	追記